

高齢者施設救急手引き

《救急要請マニュアル》

北はりま消防本部

《平成 29 年 3 月 1 日》

はじめに

近年の全国的な救急需要の増加や高齢化を背景に、高齢者向け施設からの救急要請件数も増加しており、利用者の発病や、転倒、誤飲など不慮の事故に起因した救急要請も見受けられます。まれに、利用者の生命に危険が迫っているにもかかわらず、応急手当が行われていないケースも見受けられます。

施設内での事故を防止するためには、少し工夫をすることで防げる事故があります。また、普段から健康相談のできる「かかりつけ医」を持つことや、何かのときに相談や受診のできる「協力病院」を持つことなど、もしもの事態に至る前に対応できる体制づくりが必要です。

救急隊が本当に必要とされる方のところに一刻も早く駆け付けることが本来の救急業務であることをご理解いただくとともに、緊急事態が起こった場合、迷わず119番通報し、利用者のために応急手当を実施していただく必要があります。

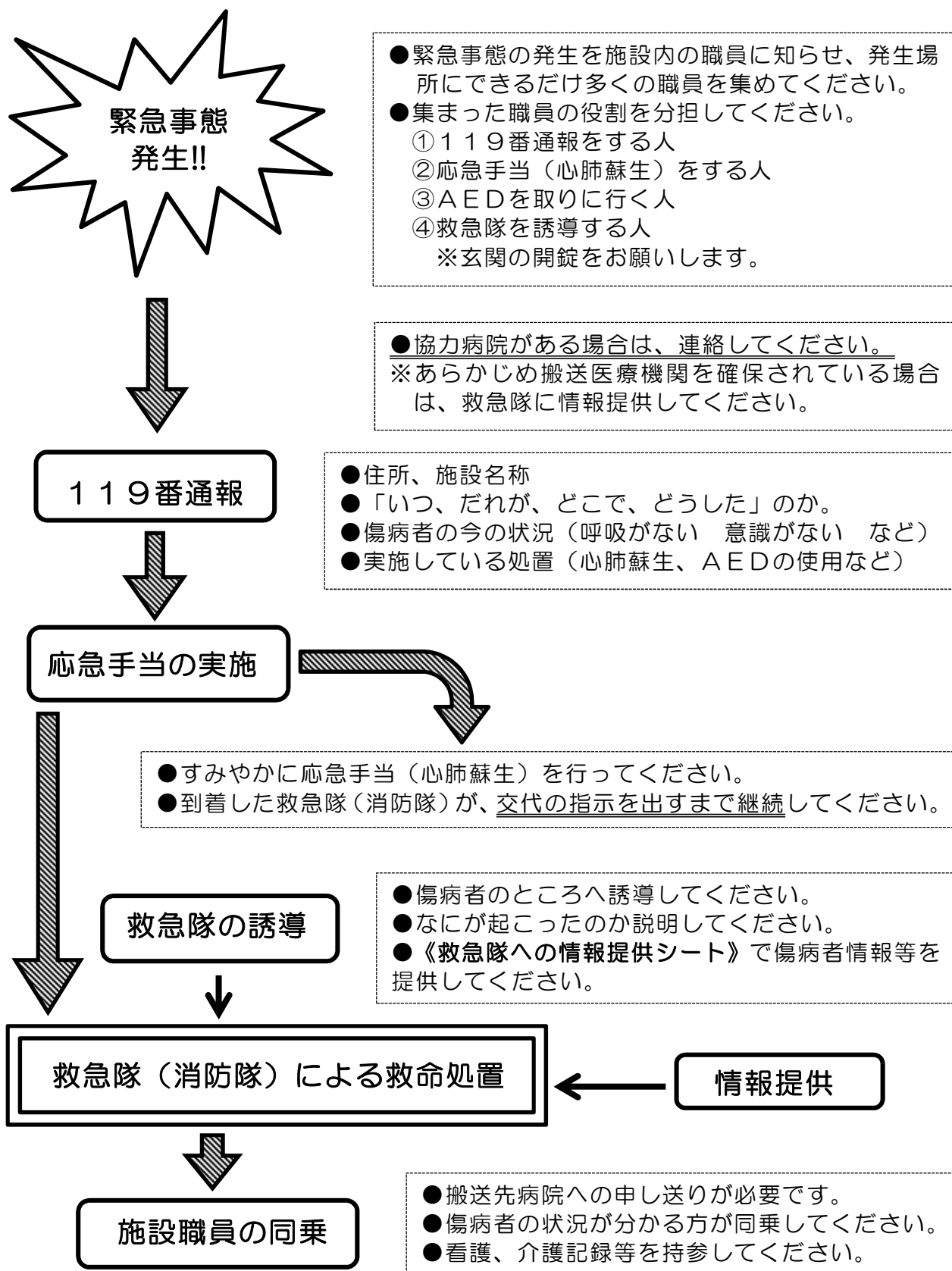
この手引きは、高齢者向け施設の緊急時対応を支援し、利用者に緊急事態が起こった場合、すみやかに対応をしていただくとともに、救急隊との連携がスムーズに進むように作成したものです。安全に対する意識を高めていただき、利用者が安心して過ごせる施設を目指してください。

目 次

1	緊急時対応フローチャート	・・・・・・・・・・	1
2	救急要請〔119番通報〕	・・・・・・・・・・	2
3	救急要請の基本的な考え方	・・・・・・・・・・	3
4	施設内での事故防止、日頃からできる対策	・・・・・・・・・・	4
5	救急隊への情報提供シート（記入例）	・・・・・・・・・・	巻末



1 緊急事態対応フローチャート



2 救急要請〔119番通報〕

尊い“いのち”を救うためには、施設職員による「119番通報」、「応急手当」、救急隊による「救命処置」、医師等による「医療処置」が途切れることなく、いずれも迅速に行われる必要があります。

緊急事態はいつ起きるか分かりません。特に、休日・夜間は施設職員が少なくなります。いざというときに慌てないために、各職員がどのように行動すればよいかを施設内で検討し、事前に対応マニュアルなどを作成しておいてください。

(1) 緊急を要する症状

急に意識がなくなったり、急に状態が悪くなったときなど、緊急を要する症状が現れている場合には、迷わずに救急車を要請してください。

(2) 救急要請時のお願い

救急要請時には、次のことに留意してください。

① 応急手当（心肺蘇生）の実施

呼吸・反応がない場合は、速やかに心肺蘇生（胸骨圧迫及び人工呼吸）を実施し、AEDがあれば直ちに使用してください。心肺蘇生は、到着した救急隊（消防隊）が交代の指示を出すまで継続してください。

② 救急隊（消防隊）の誘導と施錠解除

救急隊（消防隊）が到着したら誘導と開錠をお願いします。玄関など入り口を開錠していただくとともに、救急隊員（消防隊員）を傷病者の居場所まで誘導してください。

③ 情報提供

「救急隊への情報提供シート」を利用者ごとに事前に作成しておき、緊急事態発生時に必要項目を追記し、到着した救急隊（消防隊）に渡してください。

④ その他

医療機関への搬送に際しては、発生時の状況が分かる方が救急車に同乗してください。

（その場で同乗できない場合も、できるだけ早急に、必ず搬送医療機関への来院をお願いします。）



3 救急要請の基本的な考え方

(1) 救急車は緊急車です

事故や急病で、緊急に病院へ搬送しなければならない場合は、迷わず119番通報してください。

下記の《こんな時はすぐ119番：具体例》を参考に、救急車をすぐに呼ぶか判断してください。

(2) 救急車以外の搬送手段の検討

高齢化社会の進展に伴い、救急車の要請件数は年々増加しています。

緊急に医療機関へ搬送する必要がない場合は、タクシーや患者等搬送事業者、または施設の車両等の利用をお願いします。

(3) D N A R (Do Not Attempt Resuscitation⇒蘇生を試みないで)

救急隊が現場に到着した際、傷病者が心肺停止状態でありながら、ご家族や施設関係者から『心肺蘇生をせずに病院まで運んでほしい。』、『往診医師が到着するまで待ってほしい。』などの要望を受けることがあります。

しかしながら、救急隊は救急要請があった時点で、救命に全力を尽くす義務がありますので、心肺蘇生（胸骨圧迫及び人工呼吸）、静脈路確保、器具による気道確保などの救命処置を行いながら病院に搬送することになります。万が一、ご本人やご家族が望まない処置を受けることがないよう、普段から利用者の意向について、かかりつけ病院の医師を交えて相談していただき、情報把握に努めるようお願いします。

《こんな時はすぐに119番：具体例》

- 急に意識がなくなったとき
- 意識はあっても次のような症状があるとき
 - ◇胸が締め付けられるように痛い
 - ◇息が苦しい
 - ◇突然の激しい頭痛
 - ◇徐々に意識がなくなってきた
- 急に次のような症状が現れたとき
 - ◇片側の手足が動かない（しびれる）
 - ◇話せない（話しにくい）
 - ◇ふらつく（転倒する）
 - ◇顔にマヒがある（顔のゆがみ）
- その他、けがや病気の痛みで耐えられないと感じたとき

4 施設内での事故防止、日頃からできる対策

(1) 転倒・転落防止（事故の予防）

普段生活している慣れた場所でも事故は起こります。小さな段差でつまずき転倒することがあります。また、単なる転倒でも高齢者の場合、骨折を伴って重症になることがあります。しかし、施設内で未然対策を講じることにより、これらの事故を防ぐことができます。

利用者の安全のために施設内を点検し、危険箇所を発見し、改善することで転倒や転落等の事故防止に努めてください。

(2) かかりつけ医師、協力病院との連絡体制の構築

かかりつけ医師や協力病院との連絡を密にし、健康管理面だけでなく、容態が変化したときには、すぐに相談や受診ができる体制を取ってください。利用者が高齢であることを認識し、定期的な診察により体調の変化を把握し、症状が発症したときは早めに医療機関を受診させるなどの体制を構築してください。また症状が悪化する前に受診することや、夜間・休日で施設職員が少なくなる前に対応ができるようお願いします。

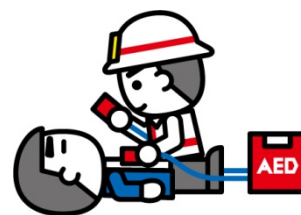
(3) 利用者の情報提供シートの作成

利用者ごとに、「救急隊への情報提供シート」を事前に記入しておいてください。救急隊への必要な情報が集約されていますので情報提供時に役立ちます。また、既往症等は日々変わることがありますので定期的に更新をしてください。

(4) 応急手当の習得と実施

傷病者の救命には発見者や居合わせた方の速やかな応急手当が不可欠です。利用者が急に命の危険にさらされたとき、誰かがすぐに救いの手を差し伸べるような体制にする必要があります。そのためには、まず、応急手当を身に付けて、利用者が安心して利用できる、安心して暮らせる施設を目指してください。

- ・ 普通救命講習Ⅰ . . . 3時間
- ・ 上級救命講習 . . . 8時間（1日）
- ・ 応急手当普及員講習 . . . 24時間（3日間）



※応急手当講習についてのお問い合わせやお申し込みは、お近くの消防署救急係、または北はりま消防本部救急課にご相談ください。

救急隊への情報提供シート

記入例

【事前記載事項】

フリガナ 氏名	しょうぼう たろう 消防太郎		男・女 男	生年月日	MT S H	15年 6月 7日 (76歳)	
住所	加東市下滝野1269番地2			電話番号	0795-48-XXXX		
病歴等	現在治療中の病気・ケガ 高血圧症		既往歴	過去に治療し、完治したもの 脳梗塞			
常用服用薬	お薬手帳 有 ・無) アムロジピン ワルファリン		アレルギー	有 無			
かかりつけ	病院名	〇〇〇市民病院		A D L	歩行	自立・見守り 一部介助 ・全介助	
	医師名	△△医師			食事	自立 ・見守り・一部介助・全介助	
	電話番号	0795-〇〇-◇◇◇◇			排泄	自立 ・見守り・一部介助・全介助	
DNAR (蘇生を試みないで) の意思表示はありますか?				有 (本人 家族 かかりつけ医師) 無			
緊急連絡先 (家族等)	氏名	消防 一郎		続柄	子 (長男)		
	住所	加東市下滝野1269番地2		電話番号	① 090-1234-□□□□ ② 0795-48-XXXX		

【119番通報時の記載事項】

発症 (受傷) を目撃 (音を聞く) しましたか?		はい ⇒		〇〇日 14時 45分頃					
いいえ ⇒		普段の状態を最後に確認したのはいつですか? ⇒							
日常生活	会話	可能・一部可能・ 不可		最終食事	〇〇日 12時 30分頃				
	歩行	可能・一部可能・ 不可			内容	ご飯、肉じゃが、お浸し、みそ汁			
救急車要請状況	いつ・・・	2:45頃、団らん中							
	どこで・・・	談話室で							
	何をした・・・	他の入所者と談話中							
	どうなった・・・	急に崩れるように椅子からずり落ちた							
意識	意識	Ⅲ-100		呼吸	20 回/分	脈拍	84 回/分		
	S p O 2	92 %	ℓ → %	血圧	153/100 mmHg	体温	℃		
所見	顔面蒼白	<input type="checkbox"/>	嘔気・嘔吐	<input type="checkbox"/>	発熱	<input type="checkbox"/>	冷や汗	<input type="checkbox"/>	() 痛
	けいれん	<input type="checkbox"/>	呼吸苦	<input type="checkbox"/>	いびき様呼吸	<input checked="" type="checkbox"/>	失禁 (大・小)	<input type="checkbox"/>	構音障害
	麻痺 ()	<input type="checkbox"/>	その他 ()	<input type="checkbox"/>					
救急車要請前の状況									
意識はなく、いびき様の呼吸 救急車到着直前に意識回復、呼吸状態も改善された。									

【お願い事項】

- ① 正常な呼吸 (胸の上下運動がない) がない場合は、応急手当 (心肺蘇生) を行って下さい。
- ② 速やかな処置の実施のため、玄関の開錠・傷病者の居場所への誘導等をお願いします。
- ③ 救急搬送の際、付き添い (発症状況のわかる方など) をお願いします。

●この情報提供シートは、救急業務以外に使用しません。

【北はりま消防本部】

救急隊への情報提供シート

【事前記載事項】

フリガナ 氏名		男 ・ 女	生年月日	M T S H	年 月 日 (歳)
住所				電話番号	
病歴等	現在治療中の病気・ケガ	既往歴	過去に治療し、完治したもの		
常用服用薬	お薬手帳 (有・無)	アレルギー	有・無		
かかりつけ	病院名	A D L	歩行	自立・見守り・一部介助・全介助	
	医師名		食事	自立・見守り・一部介助・全介助	
	電話番号		排泄	自立・見守り・一部介助・全介助	
DNAR (蘇生を試みないで) の意思表示はありますか？		有 (本人 家族 かかりつけ医師) 無			
緊急連絡先 (家族等)	氏名			続柄	
	住所			電話番号	

【119番通報時の記載事項】

発症 (受傷) を目撃 (音を聞く) しましたか？				はい ⇒	日 時 分頃	
いいえ ⇒		普段の状態を最後に確認したのはいつですか？ ⇒		⇒		
日常生活	会話	可能・一部可能・不可		最終食事	日 時 分頃	
	歩行	可能・一部可能・不可				
救急車 要請 状況	いつ・・・					
	どこで・・・					
	何をした・・・					
	どうなった・・・					
	意識		呼吸	回/分	脈拍	回/分
S p O 2	% ℓ → %	血圧	/ mmHg	体温	℃	
所見	<input type="checkbox"/> 顔面蒼白		<input type="checkbox"/> 嘔気・嘔吐	<input type="checkbox"/> 発熱	<input type="checkbox"/> 冷や汗	<input type="checkbox"/> () 痛
	<input type="checkbox"/> けいれん		<input type="checkbox"/> 呼吸苦	<input type="checkbox"/> いびき様呼吸	<input type="checkbox"/> 失禁 (大・小)	<input type="checkbox"/> 構音障害
	<input type="checkbox"/> 麻痺 ()		<input type="checkbox"/> その他 ()			
救急車要請前の状況						

《お願い事項》

- ① 正常な呼吸 (胸の上下運動がない) がない場合は、応急手当 (心肺蘇生) を行って下さい。
- ② 速やかな処置の実施のため、玄関の開錠・傷病者の居場所への誘導等をお願いします。
- ③ 救急搬送の際、付き添い (発症状況のわかる方など) をお願いします。

●この情報提供シートは、救急業務以外に使用しません。

【北はりま消防本部】